

《担当者名》太田亨 ohta@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

疾病の本態を理解するために、体全体に共通してみられる基本病変をその原因とともに学習し、それにより起こる身体の変化について学ぶ。主な項目は、細胞と組織、循環障害、代謝異常、炎症と免疫異常、疾病と年齢、がん、各臓器組織の疾病の特徴などである。

【学修目標】

【一般目標】

医療従事者としての、医療知識の基礎である病理の知識を身につける。

【到達目標】

1. 細胞、組織の成り立ちと、疾患における病変を説明できる。
2. 出生から、老化までの病態異常を説明できる。
3. 腫瘍の原因・病態を説明できる。
4. 各疾患の臓器や組織の病態を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	病理学総論 病因論 細胞・組織・再生と修復	発症原因の内因と外因 細胞障害・組織障害とその修復再生、壊死、アポトーシス、肥大・過形成について、学ぶ。	太田亨
2	循環器障害	血液・リンパ液循環障害とその疾患病態、血液凝固、虚血、塞栓症、高血圧などについて、学ぶ。	太田亨
3	炎症と免疫 感染症	慢性炎症、急性炎症、肉芽腫、アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全、種々の感染症について、学ぶ。	太田亨
4	新生児から老化まで	新生児疾患の病態、先天異常、老化の形態、老化と疾患について、学ぶ。	太田亨
5	腫瘍	腫瘍の形態、分類、良性腫瘍、悪性腫瘍、腫瘍の原因と遺伝子について、学ぶ。	太田亨
6	各論 循環器・呼吸器・消化器	心臓、肺、気管、消化器の主な疾患の病因と形態について、学ぶ。	太田亨
7	各論 内分泌系・造血系	ホルモン分泌の異常、造血系疾患の病因と形態について、学ぶ。	太田亨
8	各論 泌尿生殖器・感覚器・運動系	腎臓、泌尿器、卵巣、精巣、筋骨神経疾患の病因と形態について、学ぶ。	太田亨

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート100%

【教科書】

小林正伸 編 なるほどなっとく！病理学 病態形成の基本的なしくみ 2015年1版

【備考】

Google FormやManaba を活用し、資料配布や授業時間中にその場で学生の理解度を把握する。

【学修の準備】

予習は、各時限の講義項目の教科書領域を、一読し理解しておくこと。(80分)

復習は、講義項目を記憶すること。(80分)

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

(DP3)言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

医師

【実務経験を活かした教育内容】

医師としての実務経験を活かした講義をすることで、医療の現場で役立つ知識、技術、態度の習得に寄与する教育を実践している。